

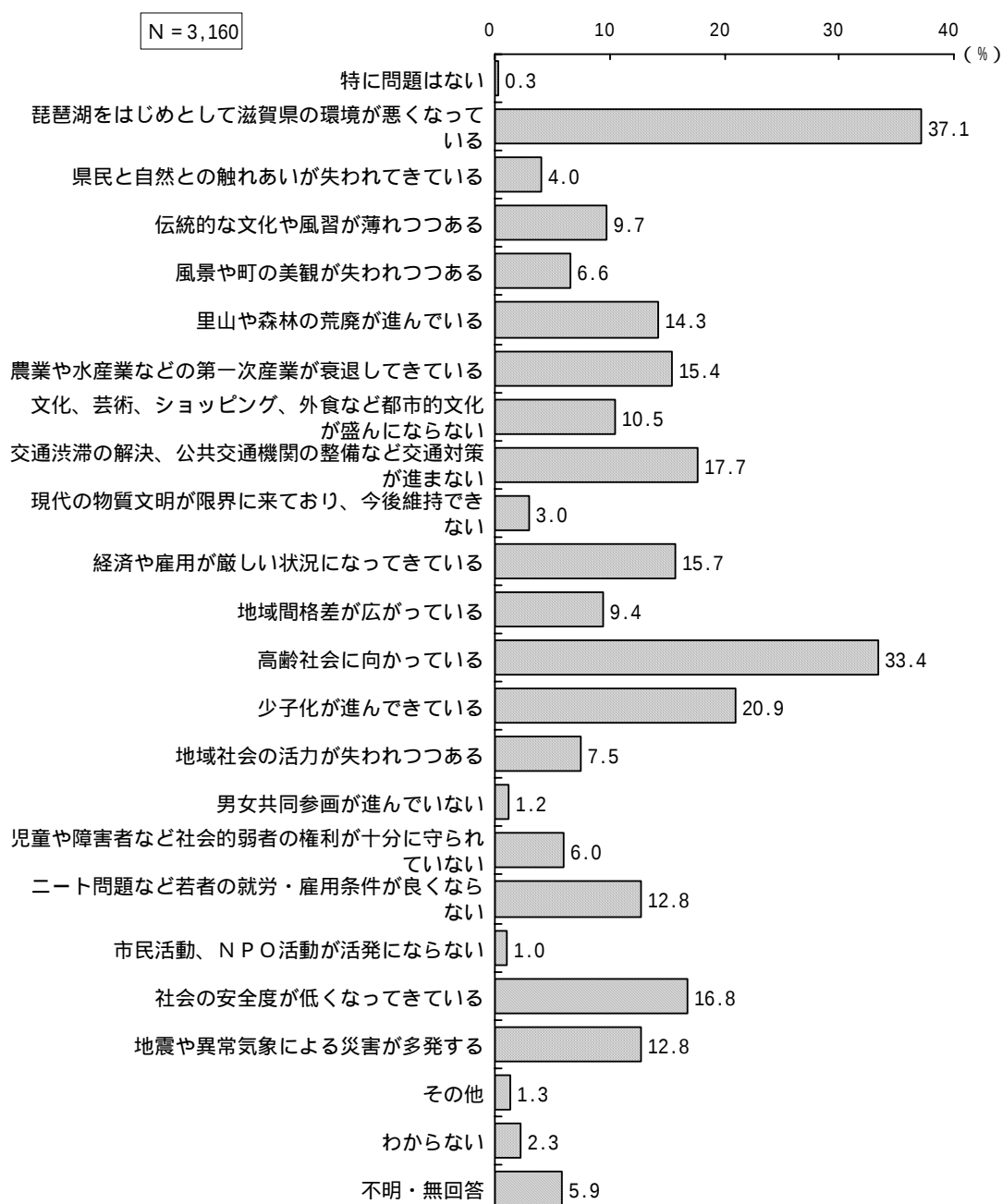
５．持続可能に発展する滋賀社会づくり

（１）持続可能な社会づくりに取り組むうえで重要な課題

問20 県では2030年を目標年として「環境」と「経済」と「社会」とが共に発展する、幸福で豊かな社会の実現を目指した「持続可能な社会づくり」に取り組んでいます。次の課題の中で、あなたはどれが重要だと思いますか。この中から3つまで選んでください。

- 「持続可能な社会づくり」に取り組むうえで重要な課題は「琵琶湖をはじめとして滋賀県の環境が悪くなっている」が37.1%

「持続可能な社会づくり」に取り組むうえで重要な課題については、「琵琶湖をはじめとして滋賀県の環境が悪くなっている」が最も多く37.1%で、次いで「高齢社会に向かっている」が33.4%、「少子化が進んできている」が20.9%となっている。「特に問題はない」は0.3%となっている。



【地域別】

大津・湖南・東近江・湖東地域では「琵琶湖をはじめとして滋賀県環境が悪くなっている」が1位となっており、甲賀・湖北・湖西地域では「高齢社会に向かっている」が1位となっている。

(上位5項目)

順位	1位	2位	3位	4位	5位
全 体 (N = 3,160)	琵琶湖をはじめとして滋賀県環境が悪くなっている (37.1%)	高齢社会に向かっている (33.4%)	少子化が進んでいる (20.9%)	交通渋滞の解決、公共交通機関の整備など交通対策が進まない (17.7%)	社会の安全度が低くなっている (16.8%)
大津地域 (N = 736)	琵琶湖をはじめとして滋賀県環境が悪くなっている (39.4%)	高齢社会に向かっている (32.1%)	交通渋滞の解決、公共交通機関の整備など交通対策が進まない (23.9%)	少子化が進んでいる (19.8%)	経済や雇用が厳しい状況になっている (15.8%)
湖南地域 (N = 660)	琵琶湖をはじめとして滋賀県環境が悪くなっている (39.7%)	高齢社会に向かっている (30.0%)	交通渋滞の解決、公共交通機関の整備など交通対策が進まない (22.1%)	社会の安全度が低くなっている (20.0%)	農業や水産業などの第一次産業が衰退してきている (17.0%)
甲賀地域 (N = 304)	高齢社会に向かっている (37.5%)	琵琶湖をはじめとして滋賀県環境が悪くなっている (29.6%)	交通渋滞の解決、公共交通機関の整備など交通対策が進まない (25.7%)	少子化が進んでいる (24.3%)	経済や雇用が厳しい状況になっている (19.1%)
東近江地域 (N = 572)	琵琶湖をはじめとして滋賀県環境が悪くなっている (38.5%)	高齢社会に向かっている (36.4%)	少子化が進んでいる (25.2%)	経済や雇用が厳しい状況になっている (16.4%)	里山や森林の荒廃が進んでいる／農業や水産業などの第一次産業が衰退してきている (15.4%)
湖東地域 (N = 318)	琵琶湖をはじめとして滋賀県環境が悪くなっている (37.7%)	高齢社会に向かっている (30.8%)	社会の安全度が低くなっている (20.1%)	少子化が進んでいる (17.6%)	農業や水産業などの第一次産業が衰退してきている (17.0%)
湖北地域 (N = 430)	高齢社会に向かっている (34.9%)	琵琶湖をはじめとして滋賀県環境が悪くなっている (33.0%)	少子化が進んでいる (27.0%)	地域間格差が広がっている (20.0%)	社会の安全度が低くなっている (19.1%)
湖西地域 (N = 137)	高齢社会に向かっている (35.0%)	琵琶湖をはじめとして滋賀県環境が悪くなっている (34.3%)	少子化が進んでいる (23.4%)	地震や異常気象による災害が多発する (21.9%)	経済や雇用が厳しい状況になっている (21.2%)

【性別】

男性では「琵琶湖をはじめとして滋賀県環境が悪くなっている」が1位となっており、女性では「高齢社会に向かっている」が1位となっている。

(上位5項目)

順位	1位	2位	3位	4位	5位
男性 (N = 1,475)	琵琶湖をはじめとして滋賀県環境が悪くなっている (39.7%)	高齢社会に向かっている (31.8%)	少子化が進んでいる (21.6%)	交通渋滞の解決、公共交通機関の整備など交通対策が進まない (21.3%)	農業や水産業などの第一次産業が衰退してきている (19.0%)
女性 (N = 1,621)	高齢社会に向かっている (35.2%)	琵琶湖をはじめとして滋賀県環境が悪くなっている (35.1%)	少子化が進んでいる (20.2%)	社会の安全度が低くなっている (18.4%)	経済や雇用が厳しい状況になっている (16.3%)

【性・年代別】

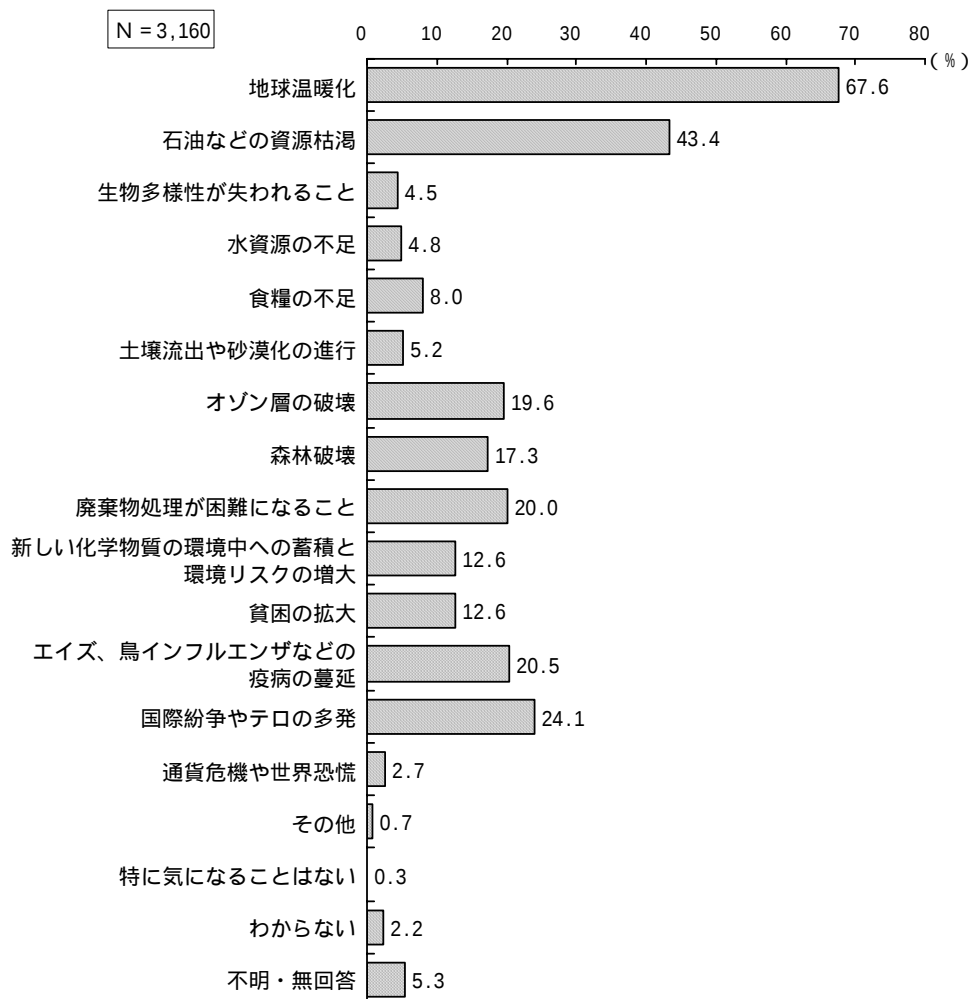
男性の20～40歳代、60歳代、女性の20・30歳代で「琵琶湖をはじめとして滋賀県が悪くなっている」が1位となっている。男性の50歳代、女性の40歳以上では「高齢化社会に向かっている」が1位になっている。

(2) 持続可能な社会を実現するうえで気になる世界的な問題

問21 持続可能な社会を実現するうえで、世界的な問題と考えられている事柄がありますが、あなたが気になっているものは何ですか。この中から3つまで選んでください。

■ 持続可能な社会を実現するうえで気になる世界的な問題は「地球温暖化」が67.6%

持続可能な社会を実現するうえで気になる世界的な問題については、「地球温暖化」が最も多く67.6%で、次いで「石油などの資源枯渇」が43.4%、「国際紛争やテロの多発」が24.1%となっている。「特に気になることはない」は0.3%となっている。



【地域別】

いずれの地域においても「地球温暖化」が1位となっており、これに次いで「石油などの資源枯渇」が2位となっている。

(上位5項目)

順位	1位	2位	3位	4位	5位
全 体 (N = 3,160)	地球温暖化 (67.6%)	石油などの資源枯 渇 (43.4%)	国際紛争やテロの 多発 (24.1%)	エイズ、鳥インフ ルエンザなどの疫 病の蔓延 (20.5%)	廃棄物処理が困難 になること (20.0%)
大津地域 (N = 736)	地球温暖化 (67.4%)	石油などの資源枯 渇 (37.2%)	国際紛争やテロの 多発 (24.2%)	エイズ、鳥インフ ルエンザなどの疫 病の蔓延 (22.3%)	オゾン層の破壊 (20.7%)
湖南地域 (N = 660)	地球温暖化 (69.1%)	石油などの資源枯 渇 (42.7%)	国際紛争やテロの 多発 (28.8%)	廃棄物処理が困難 になること (21.8%)	エイズ、鳥インフ ルエンザなどの疫 病の蔓延 (21.5%)
甲賀地域 (N = 304)	地球温暖化 (65.1%)	石油などの資源枯 渇 (48.7%)	オゾン層の破壊 (23.7%)	廃棄物処理が困難 になること (23.0%)	国際紛争やテロの 多発 (20.4%)
東近江地域 (N = 572)	地球温暖化 (67.5%)	石油などの資源枯 渇 (49.7%)	国際紛争やテロの 多発 (27.3%)	エイズ、鳥インフ ルエンザなどの疫 病の蔓延 (20.6%)	廃棄物処理が困難 になること (19.9%)
湖東地域 (N = 318)	地球温暖化 (67.3%)	石油などの資源枯 渇 (35.8%)	廃棄物処理が困難 になること (24.5%)	森林破壊 (18.9%)	国際紛争やテロの 多発 (17.6%)
湖北地域 (N = 430)	地球温暖化 (70.2%)	石油などの資源枯 渇 (47.0%)	オゾン層の破壊 (23.7%)	エイズ、鳥インフ ルエンザなどの疫 病の蔓延 (20.9%)	廃棄物処理が困難 になること (19.1%)
湖西地域 (N = 137)	地球温暖化 (60.6%)	石油などの資源枯 渇 (48.9%)	国際紛争やテロの 多発 (28.5%)	エイズ、鳥インフ ルエンザなどの疫 病の蔓延 (24.1%)	オゾン層の破壊 (23.4%)

【性別】

男女共に「地球温暖化」が最も多い。これに次いで「石油などの資源枯渇」が2位、「国際紛争やテロの多発」が3位となっている。

(上位5項目)

順位	1位	2位	3位	4位	5位
男性 (N = 1,475)	地球温暖化 (65.6%)	石油などの資源枯 渇 (47.6%)	国際紛争やテロの 多発 (24.3%)	廃棄物処理が困難 になること (21.4%)	エイズ、鳥インフ ルエンザなどの疫 病の蔓延 (20.5%)
女性 (N = 1,621)	地球温暖化 (69.9%)	石油などの資源枯 渇 (39.3%)	国際紛争やテロの 多発 (24.4%)	オゾン層の破壊 (21.8%)	エイズ、鳥インフ ルエンザなどの疫 病の蔓延 (21.2%)

【性・年代別】

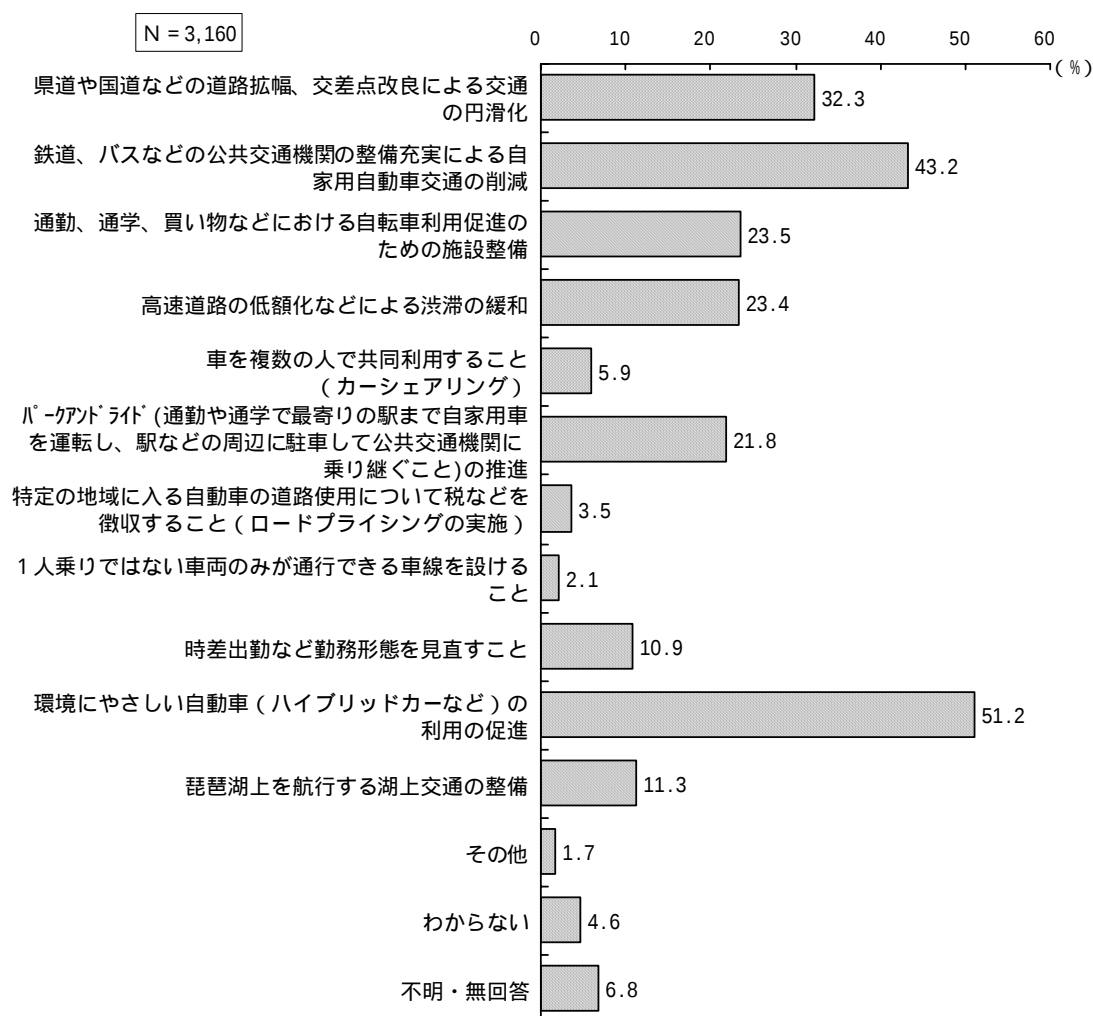
男女とも全ての年代で「地球温暖化」が1位となっており、これに次いで「石油などの資源枯渇」が2位となっている。女性では年代が高くなるほど「石油などの資源枯渇」の割合が低下する傾向にある。

(3) 自動車交通の効率化と削減のための対策

問22 持続可能な社会を実現するためには、地球温暖化防止は避けて通れない課題です。そのためには石油などの化石燃料の消費を減らし、二酸化炭素(CO_2)の排出を抑えることが必要です。 CO_2 の発生は、産業部門では技術開発等により減りつつありますが、家庭と交通・運輸部門で増えています。特に、自動車交通の効率化と削減が必要です。あなたは県がどのような対策に重点を置くべきだとお考えですか。この中から3つまで選んでください。

■ 自動車交通の効率化と削減のために重点を置くべき対策は「環境にやさしい自動車（ハイブリッドカーなど）の利用の促進」が51.2%

自動車交通の効率化と削減のために重点を置くべき対策については、「環境にやさしい自動車（ハイブリッドカーなど）の利用の促進」が最も多く51.2%で、次いで「鉄道、バスなどの公共交通機関の整備充実による自家用自動車交通の削減」が43.2%、「県道や国道などの道路拡幅、交差点改良による交通の円滑化」が32.3%となっている。



【地域別】

いずれの地域においても「環境にやさしい自動車（ハイブリッドカーなど）の利用の促進」が1位となっており、次いで「鉄道、バスなどの公共交通機関の整備充実による自家用自動車交通の削減」が2位で続いている。

（上位5項目）

順位	1位	2位	3位	4位	5位
全 体 (N = 3,160)	環境にやさしい自動車（ハイブリッドカーなど）の利用の促進 (51.2%)	鉄道、バスなどの公共交通機関の整備充実による自家用自動車交通の削減 (43.2%)	県道や国道などの道路拡幅、交差点改良による交通の円滑化 (32.3%)	通勤、通学、買い物などにおける自転車利用促進のための施設整備 (23.5%)	高速道路の低額化などによる渋滞の緩和 (23.4%)
大津地域 (N = 736)	環境にやさしい自動車（ハイブリッドカーなど）の利用の促進 (49.7%)	鉄道、バスなどの公共交通機関の整備充実による自家用自動車交通の削減 (44.0%)	県道や国道などの道路拡幅、交差点改良による交通の円滑化 (32.9%)	高速道路の低額化などによる渋滞の緩和 (23.9%)	パークアンドライド（通勤や通学で最寄りの駅まで自家用車を運転し、駅などの周辺に駐車して公共交通機関に乗り継ぐこと）の推進 (23.6%)
湖南地域 (N = 660)	環境にやさしい自動車（ハイブリッドカーなど）の利用の促進 (50.9%)	鉄道、バスなどの公共交通機関の整備充実による自家用自動車交通の削減 (45.5%)	県道や国道などの道路拡幅、交差点改良による交通の円滑化 (34.5%)	通勤、通学、買い物などにおける自転車利用促進のための施設整備 (29.4%)	高速道路の低額化などによる渋滞の緩和 (25.2%)
甲賀地域 (N = 304)	環境にやさしい自動車（ハイブリッドカーなど）の利用の促進 (56.6%)	鉄道、バスなどの公共交通機関の整備充実による自家用自動車交通の削減 (46.1%)	県道や国道などの道路拡幅、交差点改良による交通の円滑化 (38.8%)	パークアンドライド（通勤や通学で最寄りの駅まで自家用車を運転し、駅などの周辺に駐車して公共交通機関に乗り継ぐこと）の推進 (23.0%)	高速道路の低額化などによる渋滞の緩和 (22.4%)
東近江地域 (N = 572)	環境にやさしい自動車（ハイブリッドカーなど）の利用の促進 (51.7%)	鉄道、バスなどの公共交通機関の整備充実による自家用自動車交通の削減 (39.5%)	県道や国道などの道路拡幅、交差点改良による交通の円滑化 (31.5%)	高速道路の低額化などによる渋滞の緩和 (27.3%)	通勤、通学、買い物などにおける自転車利用促進のための施設整備 / パークアンドライド（通勤や通学で最寄りの駅まで自家用車を運転し、駅などの周辺に駐車して公共交通機関に乗り継ぐこと）の推進 (21.3%)
湖東地域 (N = 318)	環境にやさしい自動車（ハイブリッドカーなど）の利用の促進 (49.7%)	鉄道、バスなどの公共交通機関の整備充実による自家用自動車交通の削減 (40.3%)	県道や国道などの道路拡幅、交差点改良による交通の円滑化 (30.2%)	通勤、通学、買い物などにおける自転車利用促進のための施設整備 (26.4%)	パークアンドライド（通勤や通学で最寄りの駅まで自家用車を運転し、駅などの周辺に駐車して公共交通機関に乗り継ぐこと）の推進 (20.1%)
湖北地域 (N = 430)	環境にやさしい自動車（ハイブリッドカーなど）の利用の促進 (49.8%)	鉄道、バスなどの公共交通機関の整備充実による自家用自動車交通の削減 (42.8%)	県道や国道などの道路拡幅、交差点改良による交通の円滑化 (28.4%)	高速道路の低額化などによる渋滞の緩和 (20.5%)	パークアンドライド（通勤や通学で最寄りの駅まで自家用車を運転し、駅などの周辺に駐車して公共交通機関に乗り継ぐこと）の推進 (20.0%)
湖西地域 (N = 137)	環境にやさしい自動車（ハイブリッドカーなど）の利用の促進 (56.2%)	鉄道、バスなどの公共交通機関の整備充実による自家用自動車交通の削減 (45.3%)	県道や国道などの道路拡幅、交差点改良による交通の円滑化 (24.1%)	通勤、通学、買い物などにおける自転車利用促進のための施設整備 (23.4%)	パークアンドライド（通勤や通学で最寄りの駅まで自家用車を運転し、駅などの周辺に駐車して公共交通機関に乗り継ぐこと）の推進 (21.9%)

【性別】

男女ともに「環境にやさしい自動車（ハイブリッドカーなど）の利用の促進」が1位となっている。次いで「鉄道、バスなどの公共交通機関の整備充実による自家用自動車交通の削減」が2位、「県道や国道などの道路拡幅、交差点改良による交通の円滑化」が3位とそれぞれ続いている。

（上位5項目）

順位	1位	2位	3位	4位	5位
男性 (N = 1,475)	環境にやさしい自動車（ハイブリッドカーなど）の利用の促進 (52.7%)	鉄道、バスなどの公共交通機関の整備充実による自家用自動車交通の削減 (43.9%)	県道や国道などの道路拡幅、交差点改良による交通の円滑化 (39.4%)	高速道路の低額化などによる渋滞の緩和 (27.3%)	通勤、通学、買い物などにおける自転車利用促進のための施設整備 (23.7%)
女性 (N = 1,621)	環境にやさしい自動車（ハイブリッドカーなど）の利用の促進 (50.5%)	鉄道、バスなどの公共交通機関の整備充実による自家用自動車交通の削減 (42.9%)	県道や国道などの道路拡幅、交差点改良による交通の円滑化 (25.9%)	通勤、通学、買い物などにおける自転車利用促進のための施設整備 (23.3%)	パークアンドライド（通勤や通学で最寄りの駅まで自家用車を運転し、駅などの周辺に駐車して公共交通機関に乗り継ぐこと）の推進 (21.9%)

【性・年代別】

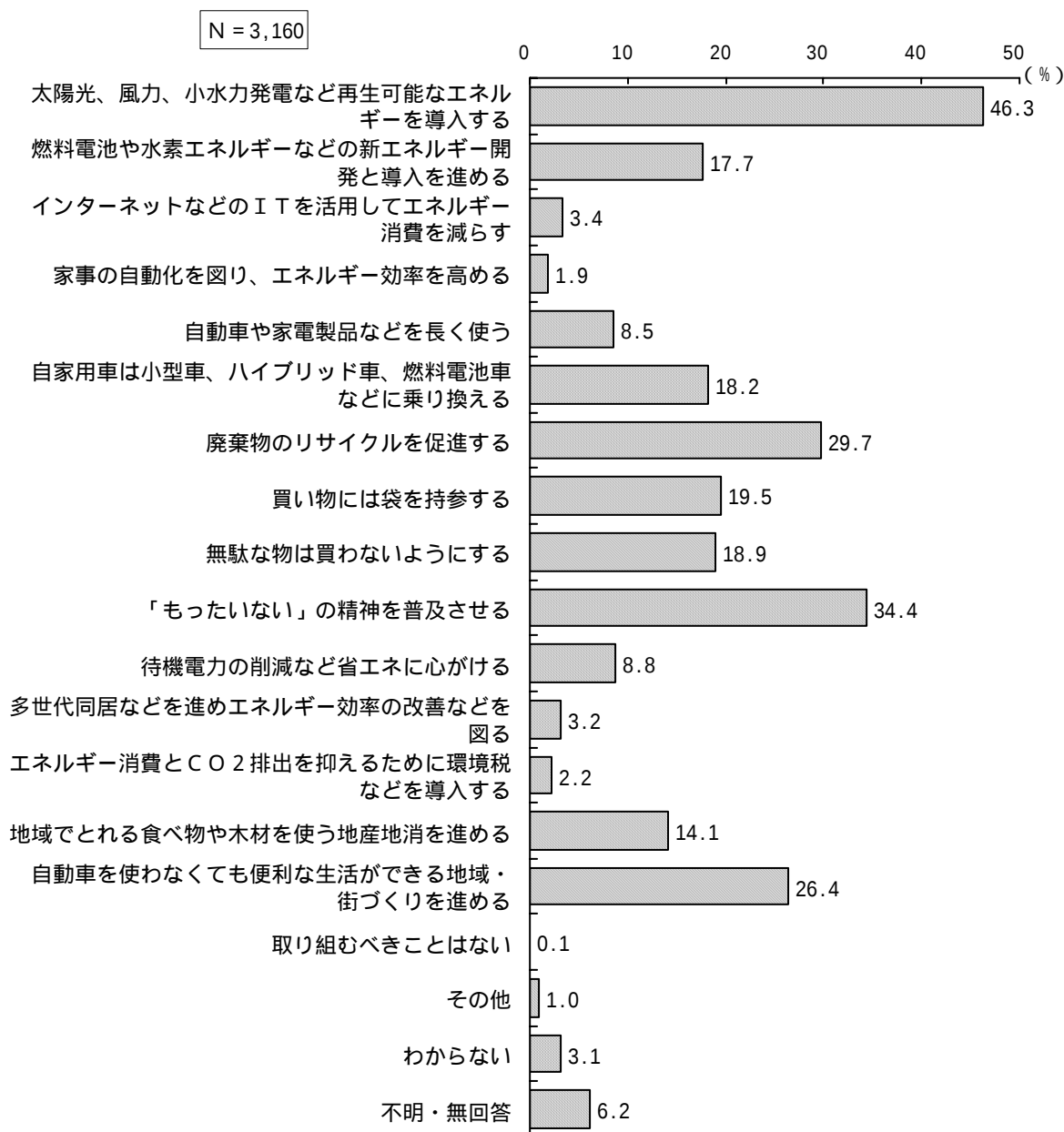
男性の全ての年代、女性の20～60歳代で「環境にやさしい自動車（ハイブリッドカーなど）の利用の促進」が最も多くなっているが、女性の70歳以上では「鉄道、バスなどの公共交通機関の整備充実による自家用自動車交通の削減」が38.7%で最も多くなっている。

(4) 持続可能な社会を実現するために力を入れるべきこと

問23 持続可能な社会を実現するために、あなたは何に力を入れて取り組むべきだと思いますか。この中から3つまで選んでください。

■ 持続可能な社会を実現するために力を入れて取り組むべきことは「太陽光、風力、小水力発電など再生可能なエネルギーを導入する」が46.3%

持続可能な社会を実現するために力を入れて取り組むべきことについては、「太陽光、風力、小水力発電など再生可能なエネルギーを導入する」が最も多く46.3%で、次いで「「もったいない」の精神を普及させる」が34.4%、「廃棄物のリサイクルを促進する」が29.7%となっている。



【地域別】

いずれの地域においても「太陽光、風力、小水力発電など再生可能なエネルギーを導入する」が1位、次いで「もったいない」の精神を普及させる」が2位となっている。ほとんどの地域で3位は「廃棄物のリサイクルを促進する」となっているが、湖西地域では「自動車を使わなくても便利な生活ができる地域・街づくりを進める」が3位となっている。

(上位5項目)

順位	1位	2位	3位	4位	5位
全 体 (N = 3,160)	太陽光、風力、小水力発電など再生可能なエネルギーを導入する (46.3%)	「もったいない」の精神を普及させる (34.4%)	廃棄物のリサイクルを促進する (29.7%)	自動車を使わなくても便利な生活ができる地域・街づくりを進める (26.4%)	買い物には袋を持参する (19.5%)
大津地域 (N = 736)	太陽光、風力、小水力発電など再生可能なエネルギーを導入する (45.9%)	「もったいない」の精神を普及させる (34.2%)	廃棄物のリサイクルを促進する (28.5%)	自動車を使わなくても便利な生活ができる地域・街づくりを進める (28.0%)	無駄な物は買わないようにする (19.8%)
湖南地域 (N = 660)	太陽光、風力、小水力発電など再生可能なエネルギーを導入する (47.9%)	「もったいない」の精神を普及させる (33.6%)	廃棄物のリサイクルを促進する (32.4%)	自動車を使わなくても便利な生活ができる地域・街づくりを進める (25.8%)	買い物には袋を持参する (21.8%)
甲賀地域 (N = 304)	太陽光、風力、小水力発電など再生可能なエネルギーを導入する (50.7%)	「もったいない」の精神を普及させる (40.8%)	廃棄物のリサイクルを促進する (32.9%)	自動車を使わなくても便利な生活ができる地域・街づくりを進める (26.3%)	自家用車は小型車、ハイブリッド車、燃料電池車などに乗り換える (21.1%)
東近江地域 (N = 572)	太陽光、風力、小水力発電など再生可能なエネルギーを導入する (47.2%)	「もったいない」の精神を普及させる (31.8%)	廃棄物のリサイクルを促進する (30.1%)	自動車を使わなくても便利な生活ができる地域・街づくりを進める (28.3%)	無駄な物は買わないようにする (19.2%)
湖東地域 (N = 318)	太陽光、風力、小水力発電など再生可能なエネルギーを導入する (45.3%)	「もったいない」の精神を普及させる (36.5%)	廃棄物のリサイクルを促進する (35.2%)	自家用車は小型車、ハイブリッド車、燃料電池車などに乗り換える (22.6%)	自動車を使わなくても便利な生活ができる地域・街づくりを進める (22.0%)
湖北地域 (N = 430)	太陽光、風力、小水力発電など再生可能なエネルギーを導入する (41.4%)	「もったいない」の精神を普及させる (34.0%)	廃棄物のリサイクルを促進する (24.2%)	自動車を使わなくても便利な生活ができる地域・街づくりを進める (23.7%)	買い物には袋を持参する / 無駄な物は買わないようにする (21.4%)
湖西地域 (N = 137)	太陽光、風力、小水力発電など再生可能なエネルギーを導入する (44.5%)	「もったいない」の精神を普及させる (32.1%)	自動車を使わなくても便利な生活ができる地域・街づくりを進める (29.9%)	無駄な物は買わないようにする (27.7%)	廃棄物のリサイクルを促進する (20.4%)

【性別】

男女ともに「太陽光、風力、小水力発電など再生可能なエネルギーを導入する」が最も多く1位となっている。次いで「「もったいない」の精神を普及させる」が2位、「廃棄物のリサイクルを促進する」が3位となっている。

(上位5項目)

順位	1位	2位	3位	4位	5位
男性 (N=1,475)	太陽光、風力、小水力発電など再生可能なエネルギーを導入する (50.7%)	「もったいない」の精神を普及させる (32.7%)	廃棄物のリサイクルを促進する (30.6%)	自動車を使わなくても便利な生活ができる地域・街づくりを進める (27.3%)	燃料電池や水素エネルギーなどの新エネルギー開発と導入を進める (24.8%)
女性 (N=1,621)	太陽光、風力、小水力発電など再生可能なエネルギーを導入する (42.9%)	「もったいない」の精神を普及させる (36.0%)	廃棄物のリサイクルを促進する (29.7%)	買い物には袋を持参する (26.4%)	自動車を使わなくても便利な生活ができる地域・街づくりを進める (26.0%)

【性・年代別】

男性の20～60歳代、女性の20～50歳代で「太陽光、風力、小水力発電など再生可能なエネルギーを導入する」が1位となっており、男性の70歳以上、女性の60歳以上では「「もったいない」の精神を普及させる」が最も多くなっている。